

令和6年度  
大松小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを実現する子どもの育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長 下山敬子 教頭 井関美香  
竹原祥子 教務 阿部孝彦 特別支援 中村明美  
1年主任 朝日奈美樹 2年主任 堀内真紀子 3年主任 小島有紀  
4年主任 平岡里奈 5年主任 粟田のり子 6年主任 竹原祥子

校長

下山 敬子

【小中連携または中高連携における共通の取組】

学習のめあての提示・学習のふりかえりを徹底して行う。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○明るく素直である。課題に対して真面目に取り組もうとする。 ●漢字・九九・計算などの定着に個人差がある。 ●音読や読書が苦手な児童が多い。 ●一斉指導の中で話を聞くことに課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。(児童全体の8割以上) ・習得した知識を他の学習や生活の場で生かすことができる。	・朝の時間や授業の初めに小テストを実施することで、学習内容の定着を図る。 ・読書、日記指導、1分間スピーチ等を通して、語彙の充実を図る。 ・ICT機器やタブレットを効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。	・授業の流れが一目で分かるような構造的な板書をする。 ・タブレットを活用した習熟度別学習を実施する。 ・保護者や高学年児童による読み聞かせ、新聞・資料を活用した朝読書の時間の確保をする。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている児童が8割以上おり、目標を達成している。高学年においては思考力を問われる問題では7割の時もあった。 ・学習のふりかえりを継続して行うことで、学習したことを生かしていきたくと述べる児童が増えた。 ・読み聞かせを継続したり、読書時間を確保したりすることで、読書量が増えた。 ・朝のスピーチなどを通して、筋道を立てて話す力を身に付けてきたが、内容に対する質問や感想を伝え合う力は十分でない。	・個に応じた習熟度別指導を取り入れる。 ・ICTのアプリの活用の仕方を教員で共有する。 ・学んだことを生活の場で生かす場を設定する。 ・今年度と同様、朝のスピーチ・読み聞かせなどを継続的に行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分なりに意見を伝えたり、問われたことに対して発表する児童が多い。 ●自分の考えを根拠に基づいて発表したり、相手の考えを受けて深めたりすることには至っていない。 ●要点を押さえて話す・聞く・書くことが難しい。	・得た知識を相互に関連づけ、筋道をたてて考えることができる。 ・根拠や理由を明らかにしながら自分の意見や考えをわかりやすく表現することができる。	・見方・考え方を働かせ、自分の考えを図や表・絵などで説明するなど、わかりやすく伝える活動を積極的に行う。 ・ペア・グループで話し合う場を設定し、学びを深められるようにする。 ・こども新聞などを活用し、内容を要約したり、感想を伝え合ったりする活動を積極的に行う。	・タブレットを有効に活用し、自分の伝えたいことを書いたり、まとめたりの活動を取り入れる。 ・ふりかえりシートを活用し、自分が分かったことや得意になったこと言葉で表し、学習のまとめを行う。	・総合的な学習の時間や各教科の調べ学習などで意識的にタブレットやICT機器を活用した。また、高学年では、自分の考えや意見を分かりやすく伝える際に、資料を有効に活用し、根拠を示しながらパワーポイントなどでまとめた。 ・ペア・グループ活動を通して、自分の考えや意見を伝えることができる児童が増えてきた。 ・ふりかえりシートを活用したり、キーワードを提示したりしながらふりかえりを書かせることで、児童の表現方法が豊かになった。	・ロイロノートや思考ツールなどを活用し、自分の意見を根拠づけて話す機会を増やす。 ・様々な学習形態を取り入れ、話し合い活動の充実を図る。 ・ふりかえりシートの改善・活用を努める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○興味・関心のあるものに対しては主体的である。 ○楽しんで学習に取り組んだり、教え合いながら学習を進めたりすることができる。 ●自ら課題を見つけて取り組むことに課題がある。 ●「やりたい」という思いが薄く、自信をもって学習に取り組めない。	・学習規律を身に付けて、集中して取り組むことができる。 ・学習の見通しをもち、自分のめあてをもって、主体的に取り組むことができる。 ・解決課題に向け、粘り強く取り組み、学習したことを次の学習につなげることができる。	・学ぶ楽しさやわかる喜びを感じ、主体的に取り組むことができるよう授業改善を行う。 ・授業の中で達成感を味わわせ、次時の学習のめあてをもつことができる。	・道徳や人権学習などを通して、自分の良さについて考えたり、生活を振り返ったりしながら、自己肯定感を高める。 ・GTなどを引き目標をもち活動的な体験を取り入れる。	・学習に前向きに取り組む児童が増え、自己肯定感も少しずつ高まっている。 ・めあてとふりかえりを意識させることで、学習に見通しをもち集中して取り組める時間が長くなってきた。しかし、自分のめあてを明確にし、主体的に取り組むことにおいてはまだ課題がある。 ・異学年交流・GTなど様々な人とのかかわりを持ち、互いの良さに気付くことで他者受容が高まりつつある。	・体験活動の年間計画を見直し、効果的で主体的な学びの場を設定する。 ・メンター制を生かした研修の向上をすすめ、めあて・ふりかえりをさらに徹底する。 ・異学年やこども園との交流の充実を図る。

令和6年度 学力向上ロードマップ

